

週報 こひつじ

第39巻 24号
大津キリスト教会
南池郡大津町室 119
TEL 096-293-4470
FAX 096-293-4961
牧師 米村 英二

ダメ、高校生になつても夜九時にとができるのだろうか、もしそうは就寝と決められ、恐くてどこかなら、と正直軽い気持ちで洗礼を近寄りがたいところがありました。受けたことにしたのです。

そんな母が教会に行くようになって変わりました。小学生だった私もまた母の変化していく様子がわかるほどでした。

洗礼を受けたものの、やはり簡単には変わりません。ですからクリスチヤンになつたことは親しい友人を除いて公にすることは

岡本はるなと申します。いつも見えた十字架を思い出したのです。小学五年生になる娘といつしょにそれがこの教会でした。

この教会に来ております。
実際、来てみたところ

出身は大分です。転勤族の夫と校があり、米村牧師の説教もすばらしく、心を打たれるものがあります。

本には地震のあつた二〇一六年にましたので、それからずつと通つてきました。

教会へ行つて牧師に相談すること
はありました。でも解決するとま
たのです。

最初の二年間は熊本市に住んでいましたが、その後菊陽町に移り、私が教会に行くようになった、そのきっかけを作ってくれたのは

きつといらっしやるだろくなあ、
でも結婚して長男ができたとき

菊陽町に住むようになつて、近くに教会はないかと探しました。たゞ母が職場の医師に誘われ、教会

「えっ！」
と戸惑いました。同時に、こう
がうちに湧いてきました。
では親として何をしたらよいか

それまではとても厳しい母で、ジヤンクフードは一切口にしては

も考えました。クリスチヤンになると考へたとき、もう一度神様としつたら、私も母のようになつかりつながろう。そう思つたの

です。神様とつながり、教会にながっていれば、いろいろな問題も乗り越えられるような気がしたのです。

その日から、以前よりまじめな教会生活が始まりました。実は、小学校に入つてから、長男はずっとクラスに溶け込むことに難しさを感じていたのです。

そこで中学校をどうするかで悩みました。私の実家のある大分の中学に進むことも考えましたが、幸い、キリスト教系のルーテル学院中学に入ることができました。

すると校風が息子にあつていたのでしょう。すっかり元気になり、サッカー部にも入れて、毎日喜んで通学しています。神様のなさつたわざだと思い、感謝しています。

学校では毎朝礼拝があるそうです。ちゃんと話を聞いてくれるかなと思つたとき、母教会の牧師の、次の言葉を思い出しました。「礼拝中眠かつたら寝てもいいですよ、寝ていてもその人の肌を通して、皮膚を通してみことばが体に入つてきます」と。

居眠りにとても寛容な牧師さんだつたのです。

息子もどんな態度で礼拝に出席しているのかわかりませんが、いふ男はずっと人生の岐路に立つたとき、心に刻まれたみことばを糧に、また軸にして人生を歩いてほしいと願っています。

そして私もその手伝いができるよう、主を信頼して主に従つて歩んでいきたいと思っています。

(終)

先週の出席

○教会学校は午前一〇時から

○第一礼拝が四七名、第二が三

五名、合計八二名（男三二、女五

〇）。子ども一三名。合わせて九五

名。

○第一礼拝には兼元さんとい

方（北九州市在住）が娘さんとい

つしょに旅行の途中で礼拝に参加

してくださいました。第二礼拝に

は、小堀徳廣・蘭子夫妻の孫のやま

と君（シアトル在住）が礼拝に参

加し、ほかの従兄弟たち三人もい

つしょでした。

先週の礼拝

ひつじ館で。

○説教は米村牧師。

○司会は合志文利さん。

○奏楽は林田はるかさん。

○説教は米村牧師。申命記の八

牧師身辺

一つはパンへの渴き。それは水平方向への渴きです。それに対して

ぼくたちの教会は単立ですが、グレイス・フェローシップという神の言葉への渴きがあります。そ

れは垂直方向への渴きです。水平方向だけでなく、垂直方向への渴流を持つていました。

教会は、以下の三人の宣教師ケニーさん、ボストロムさん、ニコラスさん（いずれも今は天国です）が深くかかわつてくださつた教会が中心となっています。日

教会はケニーさんによつて、静岡県浜松市の三つの教会はボストロムさんによつて、そして九州のぼくたちの教会はニコラスさんによる開拓、もしくは形成されたものです。

そのほかニューライフ（大阪）の豊田牧師が関与した彦根の教会がこれに参加していますので、合計九つの教会です。牧師たちの中で、今ではぼくが最年長となつてしましました。

コロナ禍では、何回かオンラインで交流しましたが、今年は顔と顔を合わせた交流会を再開しようという話が出ています。多分、秋頃になるでしょう。